

平成30年度牧之原市市民意識調査結果（一部抜粋）について

（企画政策部秘書政策課）

1 調査の概要

- ・目的 市の取り組みに対する市民の評価や意識を把握するとともに、平成27年度からスタートした第2次総合計画の進捗管理及び推進の資料とするために実施する。
- ・調査期間 平成30年4月27日～5月11日
- ・対象 16歳以上の市民1,400人を無作為抽出
- ・実施方法 郵送による調査票配布及び回収（回答は無記名）
- ・発送数 1,396通（転居等により4通未達）
- ・有効回収数 796件（5月28日到着分まで）
- ・有効回収率 57.0%

2 調査結果（一部抜粋）

（1）今お住まいの場所に今後とも住み続けたいと思いますか？（報告書P9）

- ①「住み続けたい」は62.2%となり、昨年度に比べ2.8ポイント低下した。また「市外へ移りたい」は17.2%であり、昨年度に比べ1.4ポイント上昇した。
- ②市外・市内の他の場所へ移りたい理由は、「公共施設や大きな商店がなく生活に不便だから」が50.5%と最も高かった。また、「地震や津波などの被災のおそれがあるから」は昨年度に比べ2.1ポイント上昇した。
また、10歳代では「通勤や通学など交通面が不便だから」という理由が全体の100.0%であり、全員が理由の一つとして選んだ。
- ③「住み続けたい」は20歳代が28.6%と昨年度に比べ23.7ポイント低下した。10歳代では、市外へ移りたいが20.0ポイントと昨年度の半分以下となった。

（2）今現在、幸せだと思えますか？（報告書P14）

- ①「幸せだと思う」（「大いに思う」＋「ある程度思う」）は68.6%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。また、「幸せだと思わない」（「あまり思わない」＋「まったく思わない」）は9.7%となり、昨年度と比べ0.9ポイント上昇した。
- ②幸せだと思う理由は、30～40歳代、80歳以上では「家族や友人との関係が良好だから」、20歳代以下、50～70歳代では「健康であるから」が最も高かった。

(3) 市は子どもを産み育てやすい環境だと思いますか？子どもを産み育てやすい環境にするために市が取り組むべきことは何ですか？（報告書P21、23）

①産み育てやすい環境か

ア 「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（「大いに思う（3.9%）」＋「ある程度思う（30.9%）」）は34.8%と、昨年度より0.5ポイント低下した。一方で、「子どもを産み育てやすい環境だと思わない」（「あまり思わない（16.3%）」＋「まったく思わない（4.4%）」）は20.7%と、昨年度より1.3ポイント低下した。

イ 30歳代のみで「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（31.6%）が「子どもを産み育てやすい環境だと思わない」（32.9%）を下回った。

②市が取り組むべきこと

ア 「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」が68.8%ともっとも高く、次いで「子育てに関する経済的支援の充実」（44.0%）、「親子で遊べる施設や公園の整備」（33.7%）となった。

イ 10歳代を除く全年代で「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」がもっとも高かった。10歳代では「子育てに関する経済的支援の充実」がもっとも高かった。

(4) 公共施設の更新問題（老朽化問題）を知っていましたか？更新問題に対する市の取り組みを知っていましたか？（報告書P26、28）

①公共施設の更新問題を知っていたか

ア 更新問題の「認知度（知っている）」は28.0%であり、「聞いたことがある」の41.6%と合わせると69.6%となり、昨年度に比べ1.3ポイント低下した。

イ 更新問題の「認知度（知っている）」がもっとも高かったのは、70歳代（34.5%）であった一方で、年齢が下がるにつれて認知度も低下傾向であり、10歳代では15.0%となった。

②更新問題に対する市の取り組みを知っていたか

ア 市の取り組みの「認知度（知っている）」は10.1%、「聞いたことがある」は25.0%となった。

イ 市の取り組みの「認知度（知っている）」が高かったのは、70歳代（13.8%）、60歳代（12.2%）、80歳代（11.9%）となった。

ウ 市の取り組みの情報入手経路については、「広報まきのはら」が65.6%ともっとも高く、次いで「家族や知人から」（29.7%）となった。

(5) 公共施設更新問題の対応を進めることで起こる諸問題についてどう思いますか？（報告書P33）

①「対応を進めることで起こる諸問題への容認度」（「容認できる（10.6%）」＋「ある程度までは容認できる（72.4%）」）は83.0%であり、昨年度に比べ2.3ポイント低下した。

②「容認度」がもっとも高かったのは、20歳代で91.8%（「容認できる（10.2%）」＋「ある程度までは容認できる（81.6%）」）となった。

(6) 市の産業は活力があると思いますか？市の産業が活力を持つために市が力を入れるべき取り組みは何ですか？（報告書P35、37）

①市の産業は活力があるか

ア 「活力があると思う」（「大いに思う（0.5%）」＋「ある程度思う（10.8%）」）は11.3%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。一方で、「活力があると思わない」（「あまり思わない（32.0%）」＋「まったく思わない（9.7%）」）は41.7%となり、昨年度に比べ4.6ポイント低下した。

年代別では、10歳代が「活力があると思う」が35.0%と、昨年度の15.3%より19.7ポイント上昇している。

イ 活力がある産業としては、「工業」が63.3%ともっとも高く、次いで「農業」（42.2%）となった。「工業」は、昨年度に比べ4.9ポイント上昇した。

②市の産業が活力を持つために力を入れるべき取り組みは何か

ア 「企業誘致の促進」が47.0%ともっとも高く、次いで「後継者の育成への支援」（35.9%）、「特産品・製品の市外へのPR」（31.3%）となり、昨年度と同様の傾向であった。

イ 10歳代では「イベントの開催」が45.0%ともっとも高かった。

(7) 週に何日くらい外出しますか？30分以上の運動を週に何日くらいしますか？（報告書P42、47）

①週に何日くらい外出するか

ア 「毎日外出する」は、46.1%となり、昨年度と比べほぼ変化がなかった。

イ 「毎日外出する」は、60歳以上から低くなり、60歳代では39.9%、70歳代では35.2%、80歳以上では17.8%となった。

ウ 外出目的は、「買い物」が82.5%ともっとも多く、次いで、「仕事」（61.9%）、「医療機関への通院」（38.6%）となった。

②30分以上の運動を週に何日くらいするか

ア 「ほとんどない」が46.7%ともっとも高く、次いで、「週に2～3日」（18.7%）、「週に1日」（13.3%）となり、昨年度とほぼ変化がなかった。

イ 20歳以上では、「ほとんどない」がもっとも高かった。

ウ 「ほとんどない」は、50歳代をピークに年齢が上がるにつれて低下傾向となった。

(8) 現在参加している地域活動は何ですか？地域活動の活発・活性化に必要なと思うことは何ですか？（報告書P49、52）

①現在参加している地域活動は何か

ア 「自治会の行事」が33.9%ともっとも高く、次いで、「防犯や防災」(17.8%)、「文化芸術」(12.2%)となった一方で、「参加していない」が38.9%と高かった。

イ 「地域活動へ参加していない」は、40歳代で29.8%ともっとも低く、次いで、70歳代(35.2%)、60歳代(36.5%)となった。

②地域活動の活発・活性化に必要なものは何か

ア 「住民の自治意識の向上」が46.7%ともっとも高く、昨年度とほぼ変化がなかった。次いで、「行政と住民との地域情報の共有」(35.8%)、「人材育成」(25.8%)となった。

イ 40歳代では「行政からの財政支援」が38.5%と他の年代と比べ高かった。

(9) 市からの情報の中でどんな情報を得たいと思いますか？市からの情報を何によって知ることが多いですか？広報まきのはらのどこを読みますか？（報告書P55、58、61）

①市からの情報の中でどんな情報を得たいか

ア 「健康・医療・福祉」が65.6%ともっとも高く、次いで「防災・防犯」が44.3%となった。

イ 10歳代では、「観光・イベント」が50.0%ともっとも高く、30歳代では、「子育て」が54.4%と他の年代と比べ高かった。

②市からの情報を何によって知ることが多いか

ア 「広報まきのはら」が74.4%と圧倒的に高かったが、昨年度と比べ1.8ポイント低下した。

イ 平成25年度から開設した市の「フェイスブック」により情報を得ている年代は、30歳代が19.0%ともっとも高かった。

③広報まきのはらのどこを読むか

ア 「全て」が59.5%ともっとも高く、次いで、「特集・お知らせ」(19.8%)、「生活情報」(18.4%)となった。

イ 10～30歳代では、「表紙」「輝け！未来」、「集まれ！まきのはら KIDS」が他の年代と比べそれぞれ高かった。

(10) 浜岡原子力発電所の今後についてどう思いますか？（報告書P19、20）

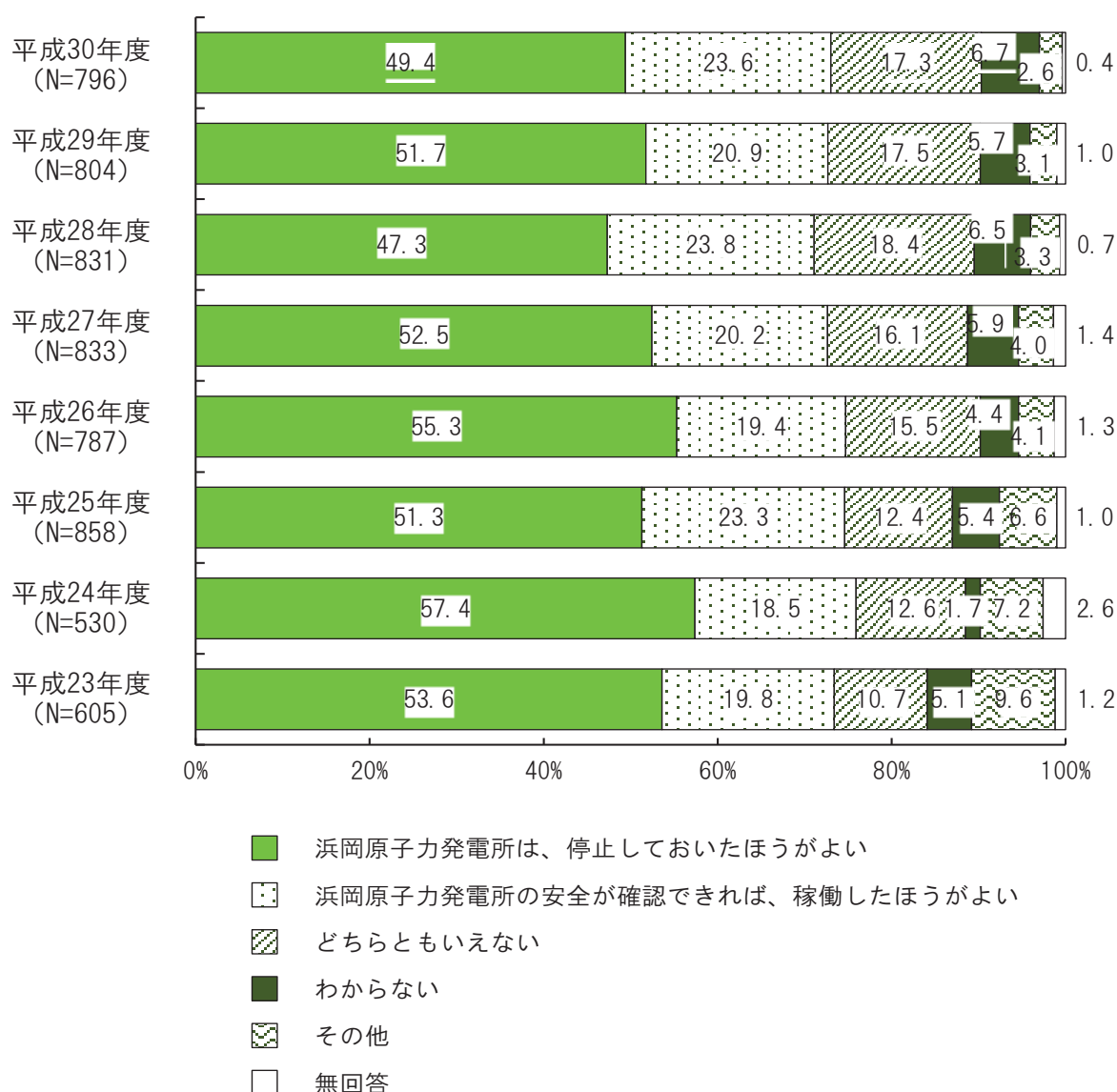
①全体

ア 「停止しておいたほうがよい」は49.4%となり約半数を占めるが、昨年度の51.7%より2.3ポイント低下した。

イ 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、23.6%となり、昨年度に比べ2.7ポイント上昇した。

ウ 「その他」の2.6%には廃炉等の意見1.3%が含まれている。

（廃炉等の意見 H29 は1.7%、H28 は1.9%、H27 は1.4%、H26 は2.0%、H25 は3.5%、H24 は4.0%、H23 は6.3%）。



②男女別

ア 「停止しておいたほうがよい」は、男性が46.5%、女性の51.9%となった。（昨年度：男性51.7%、女性51.9%）

イ 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、男性が30.3%となり、女性の18.2%を上回った。（昨年度：男性27.8%、女性15.6%）

ウ 「どちらともいえない」は、女性が18.9%とH23から増加傾向にある。

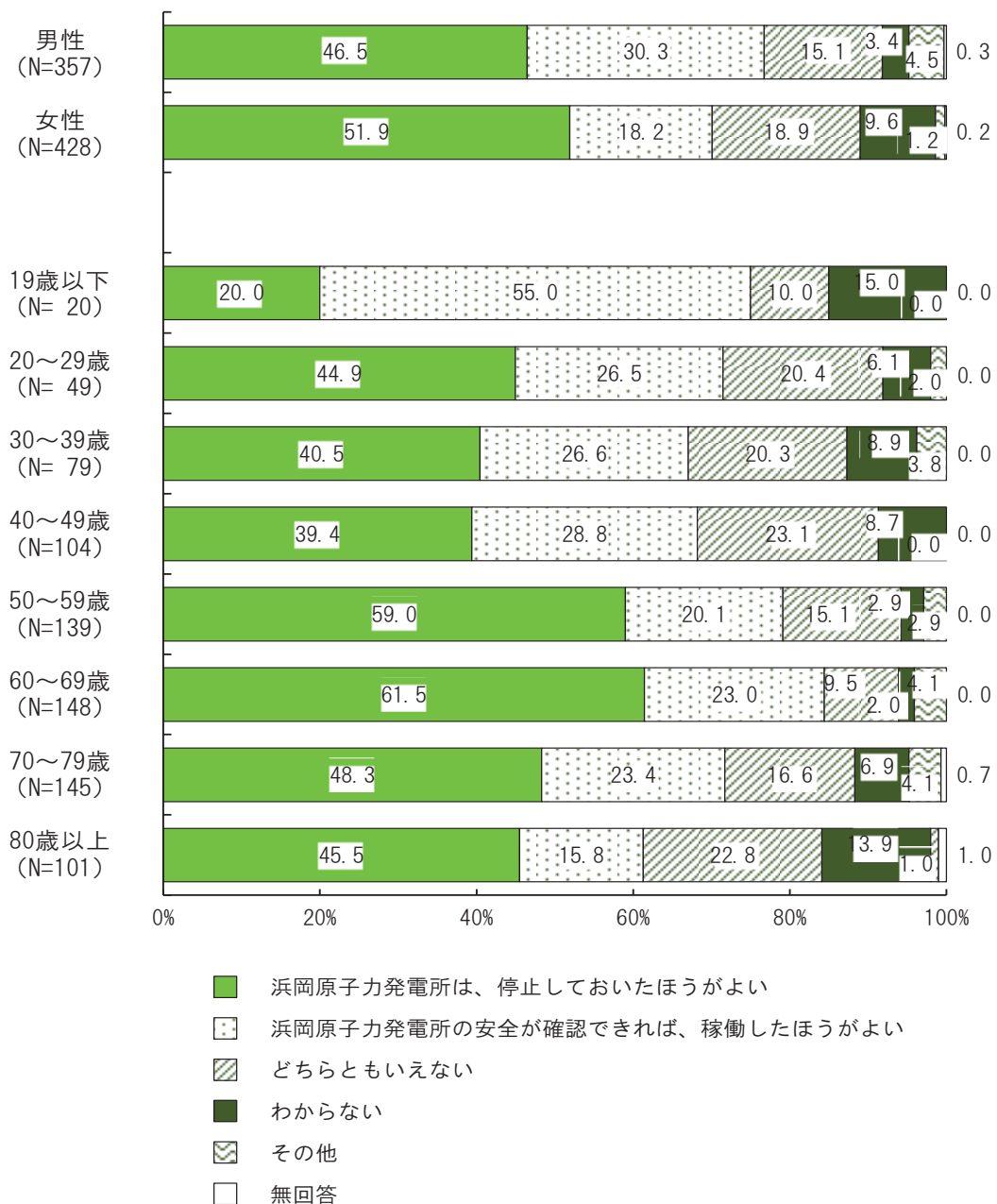
③年齢別

ア 10歳代では、「停止しておいたほうがよい」は20.0%で最も低かったが、昨年度と比較すると大きな差異は見られない。

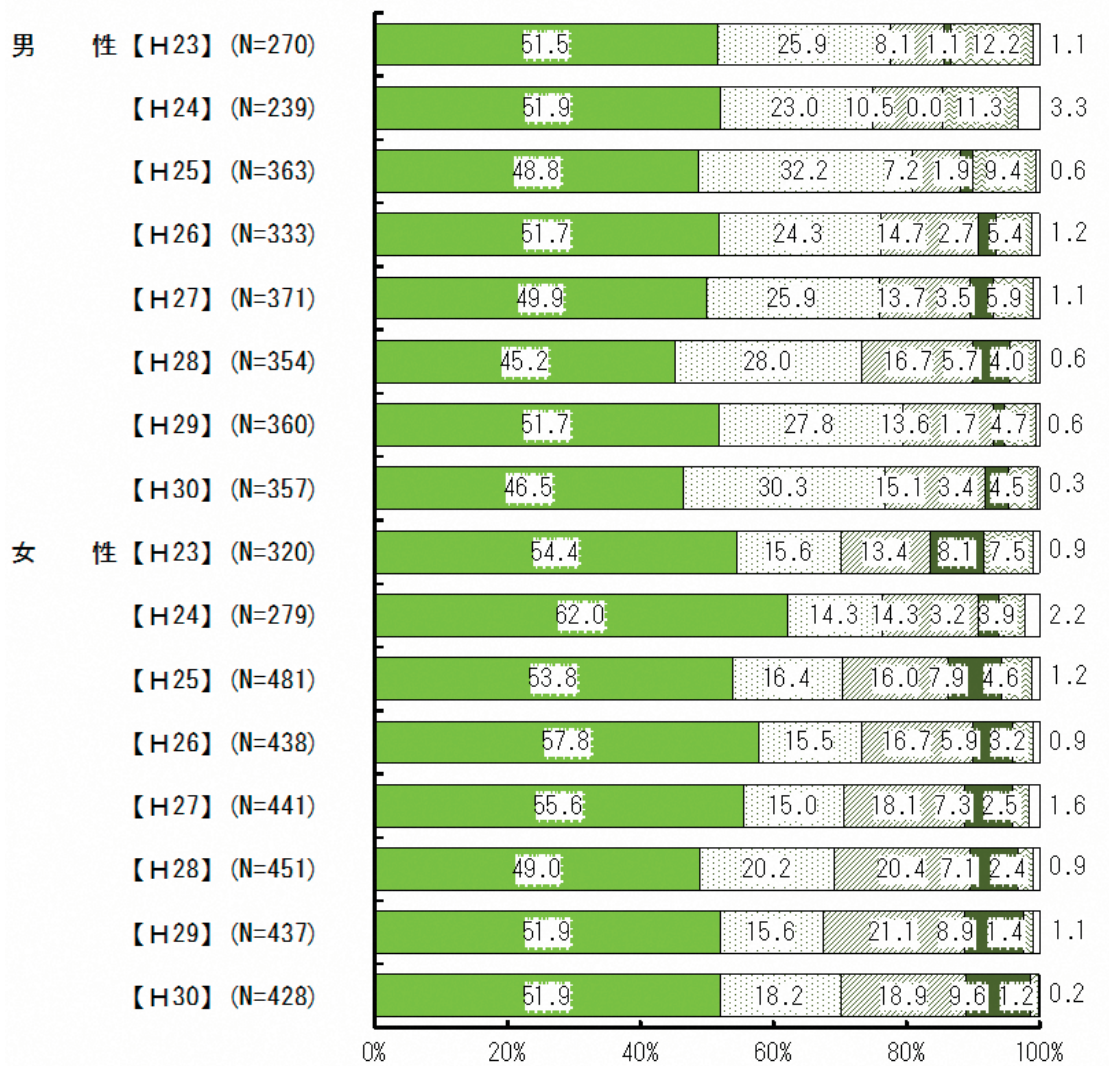
「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が55.0%と他の年代と比べもっとも高く、昨年度と比べると大幅に24.2ポイント上昇している。

イ 60歳代では、「停止しておいたほうがよい」が他の年代と比べ61.5%と最も高く、次いで50歳代（59.0%）となった。

【浜岡原発：性別・年齢別クロス】



【浜岡原発：性別クロス / 平成 23 年度以降 経年比較】



- 浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい
- 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい
- どちらともいえない
- わからない
- その他
- 無回答

【浜岡原発：年齢別クロス / 平成 23 年度以降 経年比較】

※「19 歳以下」は平成 25 年度以降のみ

